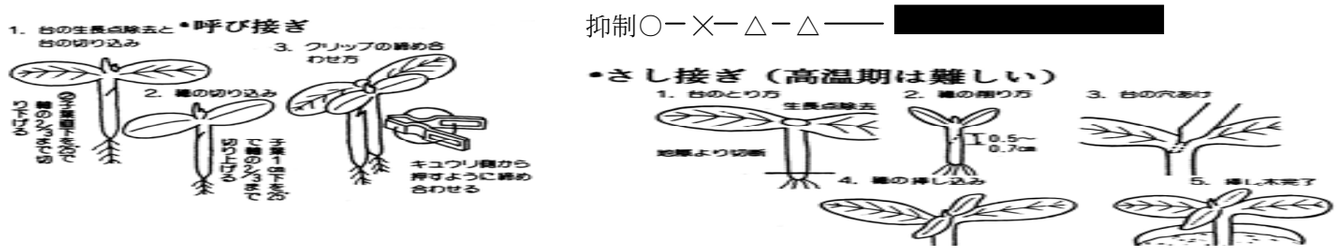
品目： きゅうり　　ハウス雨除け夏秋抑制栽培　１０ａ　　平成 22 年度版

月旬	1 上中下	2 上中下	3 上中下	4 上中下	5 上中下	6 上中下	7 上中下	8 上中下	9 上中下	10 上中下	11 上中下	12 上中下
栽培体系	雨よけ○－ ×－ △―― [redacted] 夏秋○― ×― △―― [redacted] 抑制○－×－△－△―― [redacted]											
病害	←― 立枯病、斑点細菌病 ―→ ←― うどんこ病 ―→ ←― アブラムシ、ハダニ ―→											



目標収量：雨よけ夏秋：8,000～10,000Kg
抑　　制：5,000～ 6,000kg

秀品：７０％以上

	雨よけ夏秋	抑　　制
種子量	穂木:160 Mℓ 台木：2.51	穂木：１８０Mℓ 台木:31
栽植株数	1.850 本 (1 条植)	2.000 本 (2 条植)
うね間	180cm	180cm
株　間	30cm	55cm

	肥料名	数量(kg)	成分
基肥	堆肥	5～6ｔ	N:26
	CDU 燐化安		P:24
	s 682 号	70	K:21
	BM ようりん	60	
	苦土石灰	60	
追肥	燐硝安加里	60	
	S604 号		
	液肥 2 号	60	

栽培上のポイント

1 育　苗

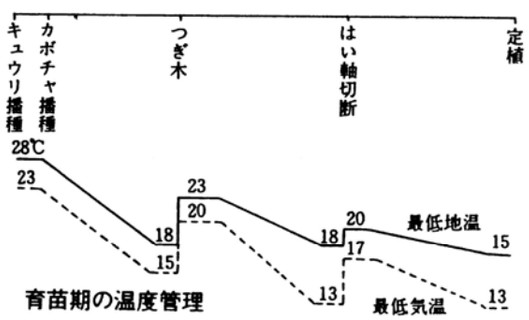
・床土は通気性・保水性が良いこと。

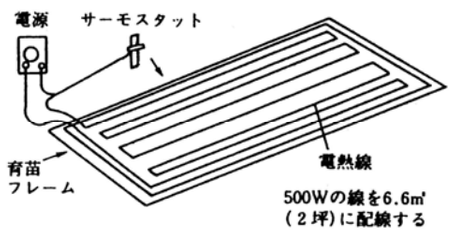
（ＰＨ６ ～6．５ＥＣ ：０．３ ～0 ・５ ）

・発芽適温：２５ ～２８ ℃（低温期は温床）

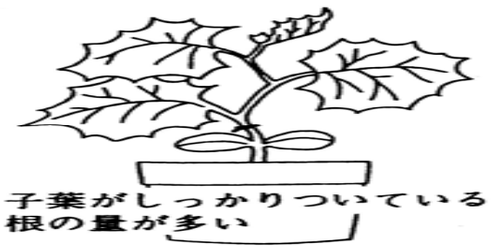
・高温期は胚軸が伸びるので床土の水分を控え、夜温を下げる。

接木後に鉢上げ（１０ ～１２ ｑれ鉢）





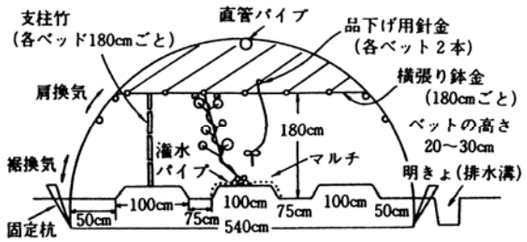
・鉢上げ後はトンネルがけし、湿度を高めて遮光し活着を促す。3 ～5 日目からは早朝夕方に換気し光に当て軟弱徒長をふせぐ。７～１０日からはトンネルを除去して鉢広げし充実させる。



2 本畑準備

・転作では排水を徹底し、良質堆肥を十分施し通気と保水性を向上（根の酸素要求高）

・盛夏は株当たりの吸水が３ ～4 ｇ もある

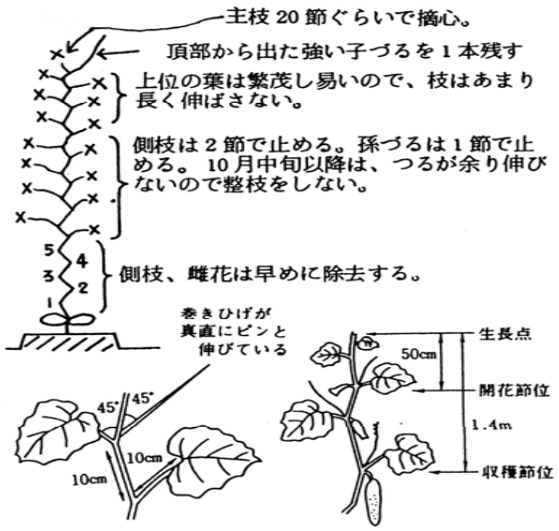


3．定植

・本葉 3．5 枚位で、夕方か曇天日にていねいに浅植し、十分かん水する。

4．整枝：親づる１本仕立て

・5 節までの側枝と 7 節までの雌花は早めに摘みとる。



5．摘葉

・展葉後 50 日位で光合成の力が劣るので、収穫始め頃から、下葉から１回 2～3 葉を 7～10 日おきに摘む。

6．追肥・かん水

・果実の肥大始め頃から、N 成 2～3kg を 7～10 日おきに施し、かん水する。

・かん水は、午前中を主に行い、9 月下旬以降は、午後のかん水は抑える。

（べと病、斑点細菌病の予防）

7．収穫

・出荷規格に合わせ、適期に収穫する。

生理障害	原　　因
曲 り 果	日照不足、低温、養水分不足
尻太り果	成りづかれ、栄養不良、カリ欠
尻細り果	高温、乾燥、丁高塩類濃度
肩こけ果	低温、栄養過剰、Ｃａ欠
にがみ果	低温、日照不足、肥料不足等
（肩部多）	にがみ成分：ククルビタシン C